

新春明けましてお目出とうございます。

よく日蓮正宗に入信すると『勤行をしなくてはならない御講や会合、登山に参加しなくてはならない一人静かに、気ままに信心をさせてくれない』と嘆く人がおられます。

考えてみますと人間は本当にわがままですから、しばらく訪ねてあげないと『来てくれない、さびしい』と訴えるし、訪ねたり誘ってあげると、『うるさい、放っておいてくれ』とわめくし、度し難い人の多い今日です。

興教寺への御参詣の皆さんは、少なくともその様な人であってはなりません。

大聖人の仏法はどこまでも心に堅く信じ、しかも口に唱え、日々に身に行ずると言う実践の信仰なのです。

言いかえますならば、世間の人々が邪法に迷い、悪法に染まっている時に、正法を修するからこそ此の信心が尊いのです。

世界中の多くの人々が信仰心をなくし、向上の志を持たず、歓楽におぼれ、無関心に生きている時に発心をし、勤行をし、折伏を行じて人々を救うと言う精進と慈悲とその実践が尊いのです。

世間の人がやっていない事を、自分達はやらされていると思う人は、大聖人の真の弟子檀那とは言えません。なぜなら、その人はもはや信心も求道心も、獅子王の気概をも失っているからであります。

無気力と愚痴、停滞と怠惰は退転の始まりです。

信じ難い正法を信じ、持ち難く行じ難い正法を修し、しかも世間の人々がやらない勤行をし、世間の人々が出来ない折伏を行わずからこそ尊いのです。

信じ難く行じ難い信心を貫くが故に、御本仏は、この実践の人に功德を与え、諸大善神はこの人を守るのです。

『法華経の宝塔品』に

「此の経は持ち難し、若し暫くも持つ者は我即ち歡喜す、諸仏も亦然なり」 (開結 四一九)と説かれ、

『日蓮大聖人』は

「三世の諸仏も妙法蓮華経の五字を以て仏に成り給いしなり、三世の諸仏の出世の本懐、一切衆生皆成仏道の妙法と云うは是なり。是等の趣きを能く能く心得て仏になる道には我慢偏執の心なく南無妙法蓮華経と唱へ奉るべき者なり」 (法華初心成仏抄 全五五七)と仰せ遊ばされています。

私達は「難事を行ずるが故に大功德あり」との信念と誇りと、その実践の志を失ってはなりません。

一言以って年頭の御挨拶とさせて頂きます。